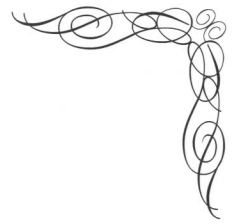


賞三賞



究者吉田富三博士を記念して設けられたものである。賞は、年一回の一層の振興をはかることを目的としている。この賞の制定の背景彰事業に取り組んでいることに対して、日本癌学会が応えるという三賞に協賛している。

第一回 平成四年



杉村 隆
(すぎむら たかし)

プロフィール

一九二六(大正十五)年四月二十日東京都生まれ。一九四九(昭和二十四)年東京大学医学部卒業。同放射線科教室助手。一九五四(昭和二十九)年癌研究会癌研究所研究員。一九六二(昭和三十七)年同研究所生化学部長。一九七四(昭和四十九)年同研究所所長。一九八四(昭和五十九)年同センター総長となる。発がん性物質の研究に取組むなかで、胃がんの人工的発がんに成功し、がん学の進歩に大きく貢献する。一九七八(昭和五十三)年文化勲章受賞。一九九二(平成四)年より同センター名誉総長。

第四回 平成七年



佐藤 春郎
(さとう はるお)

プロフィール

一九二〇(大正九)年東京生まれ、仙台に育つ。旧制二高卒。一九四五(昭和二十)年東北大医学部卒。同大学院特別研究生となり、

第二回 平成五年



菅野 晴夫
(すがの はるお)

プロフィール

一九二五(大正十四)年九月十三日山形県寒河江市生まれ。一九四七(昭和二十二)年三月旧制山形高等学校理科卒業。一九五一(昭和二十六)年東京大学医学部卒業。同病理学教室を経て、一九六五(昭和四十)年癌研究会癌研究所に入り、一九六六(昭和四十一)年同病理部長一九七三(昭和四十八)年同所長となる。胃がん細胞の継代培養、上咽頭がんからの田ウイルスの検出、脱がん現象など、常にかん病理の最前線で活躍されている日本を代表するがん病理学者。一九九三(平成五)年七月から癌研究会癌研究所名誉所長。

第五回 平成八年



伊東 信行
(いとう のぶゆき)

プロフィール

一九二八(昭和三)年京田辺市(京都府)生まれ。一九五二(昭和二十七)年奈良県立医科大学卒。米国ビッツバーグ大学研究員(一

第三回 平成六年



豊島 久真男
(とよしま くまお)

プロフィール

一九三〇(昭和五)年大阪市に生まれる。一九五四(昭和二十九)年大阪大学医学部卒業。同大学院。一九七二(昭和四十七)年大阪大学微生物病研究所教授。一九七九(昭和五十四)年東京大学医学部研究所教授。一九八七(昭和六十二)年同研究所所長。一九九〇(平成二)年大阪大学微生物病研究所所長。一九九四(平成六)年より大阪府立成人病センター総長となる。発がんメカニズムの研究に取組みウイルス肉腫ウイルスがん遺伝子を見出し、その後のがん遺伝子研究の発展に大きく貢献した。一九八七(昭和六十二)年日本学士院賞、一九九三(平成五)年同会員。豊島博士の業績の中で、最も重要なものはがん遺伝子の発見である。一九六九(昭和四十四)年R6肉腫ウイルスB77株の温度感受性(5)変異株の分離に成功し、初めてウイルスがん遺伝子の存在を証明した。

第六回 平成九年



橋本 嘉幸
(はしもと よしゆき)

プロフィール

一九三〇(昭和五)年東京生まれ。一九五二(昭和二十八)年東京大学医学部薬学科助手。一九六二(昭和三十七)年(財)東京生化学

